

4. 河口部のはなし

かこうぶのはなし

平野部

を緩やかに流れてきた一ツ瀬川は、最後に日向灘に流れ込みます。河口付近には左岸側に富田入江が広がり、釣り人やボート客などに利用され、にぎわっています。富田入江は宮崎県内では数少ない河口入江であり、藻場の分布により豊富な魚介類の生息場となっています。河口干潟には、毎年冬になると多くの渡り鳥が渡来し、宮崎県で一番の観察ポイントとなっています。



現在、河口部では富田入江しかありませんが、昭和20年代までは右岸側に二ツ建入江が存在していました。当時、この2つの入江の水域では豊富な魚介類を様々な漁法を用いて捕っていました。また、沿岸では塩田を作って塩作りが行われていましたが、治水事業による築堤により、塩田が消失し、入江も姿を変えていきました。